

備後撚糸・和紙糸

「ルームス」で帆布バッグ披露

「KU AMBIANCE」が採用

備後撚糸（広島県福山市、光成猛社長）は、独自の「水撚り製法」による和紙糸で開発した帆布生地（6号）が日本のテイストをライフスタイル提案し日米で展開するブランド「KU AMBIANCE」のバッグで採用された。16日（18日）開催さ



和紙帆布のバッグ

れるクリエイターたちの合同展示会「ルームス」

に出品する予定だ。

このバッグはデザイナー、機屋、カバン業者などとのコラボレーションにより完成。帆布はヨコ糸に和紙糸4本を引き揃えて撚糸にし、力織機で織り上げたもの。

また、和紙糸は日記帳のカバーにも採用されたほか、トレーナーも試作中。

来年には和紙糸を使った様々な生地の開発を一層促進する予定で、表情変化があり、ひと味違う触感のデニムや従来のヨコ糸使いだけでなく、タテ糸使いのデニムにもチャレンジする。備後撚糸では、他社とのコラボレーションで商品開発を強化したい考えで、和紙糸の用途を広げべく共同開発者を随時募集している。

そのほか、撚糸は複数の糸を撚っているため強

度があることからユニフォーム用途でも引き合いがあり、難燃繊維同士の撚糸も受注した。また、同社の撚糸はティーバッグにも使われており、国産ならほぼすべてが備後撚糸生産によるもの。

備後撚糸はこれら生産する撚糸が様々な用途に

引き合いが増えた結果、リーマンショック以降の不振からは回復、6-8月は黒字で推移している。

備後撚糸はこれら生産する撚糸が様々な用途に